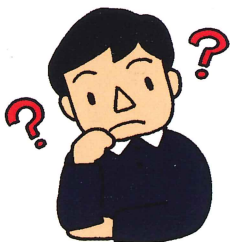


なるほど

ぶつ じ 仏事

第13回

金
封



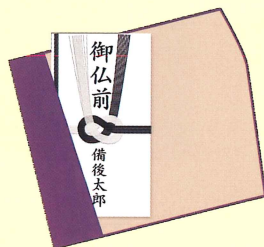
じょう ど しん しゅう ほん がん じ は びん ご きょう く
浄土真宗本願寺派備後教区
じ ぎょう すい しん い いん かい
事業推進委員会

仏事の中心は 阿弥陀如来

お葬式、年回法事など仏事は様々です。また自らが施主となって勤める場合、親戚や知り合いのお宅に仏事で招かれる場合など形も様々で、そんなとき困るのがお供えする金封の表書きです。

金封も含め、浄土真宗のお供え（お蠟燭・お花・お香・お仏飯・お供物など）は阿弥陀如来のお救いを慶び感謝する報謝の思いを表したものです。

阿弥陀如来の御前にお供えすることを忘れてはなりません。

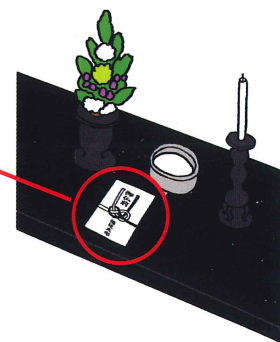


金封のお供えの向き

御本尊である阿弥陀如来にお供えする時は、お参りするもの（自分）から見て、表書きが読める方向にして置きます。僧侶や施主に差し出す時は、相手から見て表書きが読める方向にして、差し出します。



阿弥陀如来にお供え



僧侶・施主へ渡す時



金封の水引の色

入仏法要・初参式・報恩講法要などの時は、赤白の水引の金封を使います。葬儀・年回法要などのときは、黒白・銀白・黄白の水引の金封を使います。元来は水引無しの無地の奉書紙が用いられていたといえます。ですから水引の色に決まりはありません。

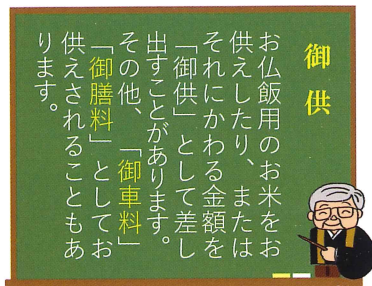
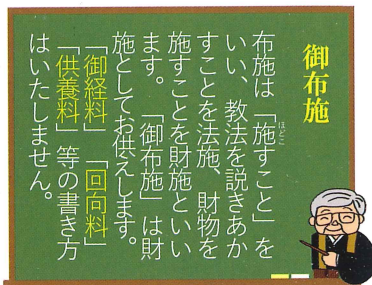
本願寺出版社発行 浄土真宗 必携『み教えと歩む』参照



仏事を 勤める場合

施主が僧侶にお渡しする場合

阿弥陀如来へのお供え



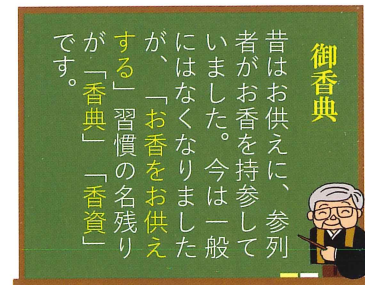
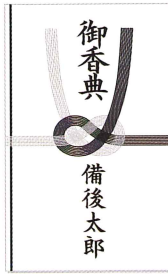
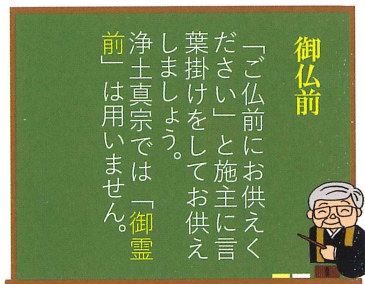
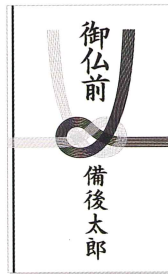
浄土真宗の仏事は、故人の冥福を祈って僧侶にお経をあげてもらふ仏教行事ではありません。故人を偲び、故人を縁として、私が仏法に遇わせていただく仏縁です。



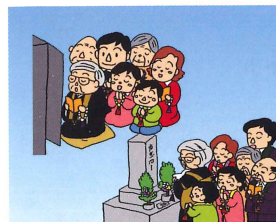
仏事に 参列した場合

参列者が施主にお渡しする場合

故人の霊ではなく、仏さまに



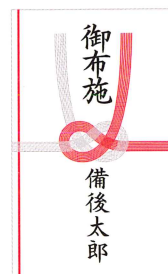
浄土真宗のみ教えは、霊となってさまざまの教えではありません。阿弥陀如来より賜る信心一つで、この世のいのちを終えると同時に、お浄土に生まれ、仏にならせていただく「往生即成仏」です。



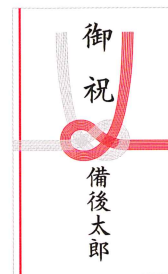
仏事で 慶事の場合

入仏法要・建碑法要・各慶讃法要などの場合

熨斗は避けましょう



入仏法要
お仏壇を新しく購入し阿弥陀如来をお迎えする法要。
建碑法要
お墓を建立した時にお勤めする法要。
初参式・報恩講の御布施など。



寺院慶讃法要・住職継職法要
本堂・庫裏の新改築、現住職から新住職へと継承される法要などへの御供。



永代経法要など
寺院に懸志を納める時。

